



基本理念「心のかよう医療を行い、信頼される病院」

かわせみ

R4年度
秋号
VOL.54

◆麻酔科のご案内

◆「下肢静脈瘤」ってご存知ですか？

◆新任医師のお知らせ



ご挨拶

木下 隆 (きのした たかし) 副院長 兼 外科主任部長 兼 医療安全管理室長

現在、当院は施設・設備が刷新されただけではなく、日本内視鏡外科学会技術認定医5名が在籍するなど、各診療科とも大学病院に引けを取らないくらい若くて優秀な人材が集結してきています。ただ、いかに優秀な医師でも、いかに設備・機械が整備されていたとしても、一人で医療行為を行うことはできません。医師は他の医師、看護師、薬剤師や他の医療従事者とともに医療・ケアチームを結成し、皆で協力して診療にあたることで初めて安全で確実な医療が提供できるといわれています。このチーム医療体制をいかにうまく構築していくかが、今の日本の医療界の課題ともいえます。

市立ひらかた病院としても病院改革プランにチーム医療を掲げ、医療安全管理室も体制構築を強く推進してまいりました。幸いにも当院は2007年からTQM (Total Quality Management) 活動を開始、組織横断的に医療の質の改善に取り組んでおり、診療科間・職種間の隔たりが少なく、チーム医療体制を構築しやすいという利点もあります。今後は患者の皆様にもチームに加わっていただき、より発展したチーム医療体制を構築していきたいと考えています。より良い市立ひらかた病院、より良い地域の医療体制を整えていくため、今後ともご協力・ご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

麻酔科をご紹介します

麻酔科



宮崎 信一郎
(みやざき しんいちろう)
麻酔科主任部長

当院麻酔科ではペインクリニック外来で痛みに関する診療を行っています。腰痛、頭痛、肩こりをはじめ、帯状疱疹後神経痛や坐骨神経痛、五十肩、上下肢のしびれ痛み、手術後の疼痛、がん性疼痛などあらゆる痛みに関してご相談ください。

治療の方法は薬物療法、超音波ガイド下神経ブロック、X線透視下神経ブロックなどの組み合わせが主体になります。薬物療法では疼痛の原因に応じて薬物を選択し、治療効果と副作用を評価しながら最適な用量を決めていきます。超音波ガイド下神経ブロックは最新の超音波診断装置（エコー）を使用し、神経や血管などをリアルタイムに確認しながら疼痛の原因となっている神経や筋肉、



関節などに局所麻酔薬や炎症を抑える薬などを投与する治療法で、主に体表面に近い部位が対象となります。X線透視下神経ブロックはX線透視下に解剖学的部位を確認しながら神経周辺などに薬液を投与する治療法で、主に体の深い部位が対象となります。神経ブロックは整形外科の手術などとは異なり、原因の根本的な治療ではありませんが、一旦炎症を抑え、痛みを和らげてあげることが重要です。

それらに加え、必要であればリハビリテーションや心理療法などを併用し、多職種の協同によるチーム医療で治療にあたります。慢性疼痛は気分の落ち込みや動作の制限など生活の質（QOL:Quality of life）に大きく影響します。当科での治療により少しでも皆さまの疼痛軽減やQOL改善に役立てれば幸いです。





吉井 康欣
(よしい やすよし)
診療局次長兼
心血管外科主任部長兼
呼吸器外科部長兼
医療安全管理室副室長

「下肢静脈瘤」ってご存知ですか？

あしの静脈がボコボコしている、あれです。
気になっていませんか？それ、下肢静脈瘤かもしれません。

特に40歳以上の女性に多く見られ、年を重ねるほど増えて行きます。網目状やくもの巣状にひろがる、赤や青むらさき色の細かい静脈瘤を含めると日本における下肢静脈瘤の患者数は、1000万人以上と推定されています。これだけ患者数が多いにもかかわらず、今一つ認知度が低い理由は、「日常生活で特に困っていないから」とか「症状がないから」とか「見た目は気にならないし、なんとなく面倒くさい」など疾患として認知されていないからではないかと想像します。下肢静脈瘤の主な症状は、「足がむくむ」「重だるい」、「足がつる」、「皮膚が黒ずんでかゆい」などですが、なかでも「むくみ」は、生活習慣や加齢など生理的なものの中に紛れていて、疾患と思わず日々過ごされている方が多いのではないかと推察されます。

下肢静脈瘤⇒血栓が飛んで脳梗塞や心筋梗塞を起こしたり、足を切断したりすることにはなりません。治療が必要なのは、下肢静脈瘤による前述の症状があつてつらい場合や、皮膚炎が起こつてかゆいなど生活に影響が及んだ時です。もちろん、ご高齢の方や、自覚症状がなく、見た目が全く気にならないなどの場合は、特に治療の必要はなく、弾性ストッキング(履くのが大変なきついストッキング)を履く必要もありません。あわてて受診しなくても大丈夫です。気になったら、当院、心血管外科 静脈瘤外来にご相談ください。

治療が要る要らないの判断や、過去に治療した後の再発も含め、下肢静脈瘤も、お一人お一人の病態が違いますので、最新の1470nmレーザー焼灼手術、圧迫療法、硬化療法や外科的処置など最適な方法を選択あるいは組み合わせて、オーダーメイドの治療をご提案できると思います。



当院で使用している1470nmレーザー機器です。

■ 静脈瘤外来 毎木曜日 9:00~13:00

新任医師のお知らせ

渡部 琢治(わたなべ たくじ) 令和4年8月1日着任

脳神経外科 部長



はじめまして、脳神経外科の渡部琢治と申します。これまでに大阪医科薬科大学の関連病院をまわってきましたが、その中で脳血管障害、外傷の外科手術や水頭症に対するシャント手術等を中心に経験を積んで参りました。ひらかた病院には平成12~13年に1年間お世話になった経過があります。この度ご縁があり約20年ぶりに着任しましたが、新病院に建て替わり、新たな気持ちで一杯です。これまでの経験を生かして貢献できればと思っておりますので宜しくお願いいたします。

人事異動のお知らせ

呼吸器外科 片岡 尚久医師は8月1日付で救急科に異動になりました。

登録医療機関のご紹介

えだがわ胃腸内科クリニック

枚方市招堤平野町 5-22 TEL.072-851-5656

診療科 内科・胃腸内科



枝川 豪先生



枝川先生は自宅で診療所をされていたお父様の背中をみて、医師になることを志され、現在の地で開業されました。診療は一般内科の他に、胃腸内科も専門であり、内視鏡検査にもご自身で対応されています。枝川先生は、患者さんと一緒に寄り添って悩みを解決していきたいので、患者さんが不安に思うことは全て話してもらいたいと話されていました。その為、内科疾患以外の

ことでも患者さんの相談窓口となり、「街のコンシェルジュ」を目指して日々診療にあたられているそうです。診療を通じてたくさんの患者さんと出会い、治療にあたる医師という職業は先生にとって天職であり、地域に還元できるような医師でありたいと考えておられます。先生の余暇の過ごし方は、アウトドアが好きなので、家族と一緒にスキーやキャンプを楽しまれているそうです。またパン好きで、パン屋さんができるとつい買いにいってしまうとお話されました。

枝川先生、ありがとうございました。



かみやま歯科医院

枚方市南楠葉 1-3-10 TEL.072-836-7751

診療科 歯科



神山 伸一先生



神山先生は、奥様の出身地である楠葉で開業されました。旭学園第二幼稚園、交北小学校の校医を20年以上されており、子ども達の健康な歯を守るためのサポートに取り組んでおられます。医院では、一般歯科を中心に診療され、近年では長く通院されている患者さんの要望に応えるため、訪問歯科診療もされています。診察においては、患者さんとのコミュニケーションを大切に、一方的にならない対応を心がけておられるということでした。また、スタッフとも風通しの良い関係性が築かれており、勤続年数

長いスタッフが多いそうです。長く勤務されているスタッフさんがいることで、患者さんに合わせたきめ細かな対応もでき、信頼関係が出来ていると感じました。休日は、家族との釣りや野球、ゴルフなどアウトドアを楽しまれています。また桑田佳祐さんのファンである先生はコンサートにも行かれるそうで、待合室に飾られている桑田さんのポスターが印象的でした。

神山先生、ありがとうございました。

